

---

# 白水の蛙

えみやみかん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白水の蛙

### 【Nコード】

N4940I

### 【作者名】

えみやみかん

### 【あらすじ】

四国霧ヶ森山中にある白水神社には白水湖という湖から流れでた水で作られた白水沼という沼がある。

沼は周囲1キロほどの小さなものであるが、山全体が鎮守の森として残っており人手の入っていない沼は平成の今でも神が宿るとされ、麓の町では毎年二度も御神輿おみこしが町を回り、豊作と無病息災を祈っていた。

祭られている神は白山姫神しらかみめのかみ。霊峰白山しらかみを主として全国に散らばる神社のひとつとされてきた。

しかし、実際に祭られているのは白山主神という蛙の姿を由来に持つ男神。

それを知っているのは神社に住む宮司と宮司の娘。なぜ本当の神を祭らずに、偽りの神を祭っているのか？

蛙と人間と神と獣が出てくる怪奇小説・・・なのかなあ？

## はじまり

どぼん

そう大きくはない

しかし間違いない沼に何かが落ちる音が響き渡る。

それは月夜の静かな湖面におおきな波紋を作り、それまで動かなかつた沼全体を震わせた。

数秒であつたが静けさを保っていた湖面に白い泡がぶくぶくと浮かんでくる

すぐにそれは強さを増し何かが浮き上がってきた

しかし、様子が変である。

必死に腕をまわし、水をかき回す。

その動きはでたらめだが、現状を打開しようと思死であつた。

そう、その何かは沼の真ん中で溺れていた。

ばしゃばしゃと湖面が波立つ。

しかし無常にも夜の静けさは何一つとしてその必死な何かに手を伸ばそうとはしなかった。

もう駄目かと、何かが思ったとき自分の掌大の緑色や茶色の何かを体を押し上げていることに気づいた。

いったいそれが何のかは先ほど雲が月光をさえぎつたため見当もつかなかつた、が妙にぬめりがある。

しかし、自分の掌も同じようにぬめっている、きっと沼の藻か何かだろうとそのときは解釈した。

どうやらそれは複数で何かを押し上げ、溺れぬようにしてくれているようである。

何かは助かつたという安堵の気持ちと早く岸に上がりたいという焦りのせいでそれが何であるかなどもうどうでもよくなっていた。

下にある何かたちは上の何かが落ち着いたのを見計らって岸へとゆっくりと移動を始めた。

それは浮き島であった。何かが複数で構成している島。もろくて壊れそうだが一回り大きな何かが載っても瓦解を始めるようなことはなかった。

たしかな手ごたえを感じた何かは下の何かが岸を目指して動き始めたのを感じ取ると先ほどの水の恐怖に疲れたのか目を閉じた。

いきなり沼に落ちて、溺れたのだ。

何がなんだかよく分かっている混乱した頭は休養を必要としていた。

視界を閉じた何かの頭にはもう寝ることしか頭にはない。

疲れた。そう思ったとき何かは深い眠りに落ちていった。

月夜の中動いているのはその浮島だけであった。

何かと何かの集団はもうすぐ岸に着こうとしていた。

## はじめり（後書き）

いわゆる処女作というやつです。

文章力もなにもあつたもんじゃありません。

プロローグである「はじめり」はたぶんあとから改訂版出します。  
週に一度更新できたらいいほうか

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4940i/>

---

白水の蛙

2011年1月23日02時46分発行